

## I 信仰の人々の姿。: 13

1. 「これらの人たち」＝アブラハム、サラ、イサク、ヤコブは、信仰の人として生き、また、彼らの死も信仰によるものだった。つまり、死ぬ時も、神への信仰を失わず、天の都＝天国の希望をもって生涯を終えた。

「アブラハムは、わたし（キリスト）の日を見るようになることを、大いに喜んでいました。そして、それ（主のクリスマス、十字架、復活、再臨、新天新地、天国）を見て、喜んだのです」（ヨハネ8:56）。

これは驚くべき事、御聖霊の啓示である。私達も、希望ある信仰の人々として生涯を終えたい。

2. 彼らが生きている間には「約束のもの」: 13＝神の都、天国、キリストによる救いの完成は、手に入れる事はなかった。主の再臨（アドベントは、「到来」を意味し、主の「初臨」クリスマスと主の「再臨」救いの完成を待ち望む時）の時に、それを手に入れることが出来る。素晴らしい事に、彼らは、信仰の目で天の都を見ていた。信仰は目に見えないものを確信させる。: 1. そして、「喜び迎え」の原語は、「挨拶する、歓迎する、いらっしゃいと言う、宜しくと伝言する」の意。信仰者にとり天国は、事実、現実であり、天国に向かって、「私も神の時まで、地上で主によって主からの使命に生きて、神の時に生涯を終え、そちらに行きますから、天国の方々に、よろしくお伝えください」と言えるのである。クリスチャンにとり、死が近づくと天国が近づくとする事である。だから喜びがある。

3. 「地上では旅人であり、寄留者であることを告白していました（認めていた）」: 13。

①彼らは、この地上の生活は、天国に向かう旅であり、「わたしたちの国籍は天にあります」（ピリピ3:20）と知っていた。

「旅人」は、当時、異国人、外国人を意味する言葉で、彼らは、苦しい立場に置かれていた。

クリスチャンもそうである。迫害も受ける。しかし、それをみじめに思ってはならない。

それは、尊いイエス様の歩まれた道。神の国を目指して旅するクリスチャンは、この地上においては、不自由や屈辱を覚悟する（マタイ16:24, 25）。

また、この世の名誉や富に執着しない。のめり込まない。かえって、心と体と物質、お金を神から与えられ、預っているものとして、正しく管理し、用いつつ神と人に仕えて行く。

こういう意味で、私達クリスチャンは、地上では旅人であり寄留者である。

恐ろしいことに、人間は、権力（の集中、支配し、支配される関係）、お金、名誉にどっぷりつかり出す時、その人の心の善悪の判断、道徳心、弱い人を助け、思いやる心はなくなり、腐って行く。

今の政治家も組織の指導者も。私達も目を覚まして祈りたい。

②旅人、寄留者の具体的な生き方 ＝

i 貪欲から解放された生活（「淫らな者、汚れた者、貪る者は偶像礼拝者」エペソ5:5、「金持ちになりたがる人たちは、誘惑と罠と、また人を滅びと破滅に沈める愚かたで有害な欲望に陥ります」Iテモテ6:9）。

私達は、すべてのものを神からいただいている。その神に心から感謝し、10分の1の献金、礼拝献金、他の必要の為の奉げ物は、私達を、かえって貪欲の誘惑から守る。もし、世界中の人々が、神が与えて下さる収入の10分の1を神に奉げるなら（マラキ3:10）、世界中の人々が助けられ、天の窓が開き神に祝福される（マラキ3:10）ことだろう。※手を握る譬え。

ii 神こそ万物の造り主、所有者であり、私達は、その管理者である（創世記1:28）。だから、神に委ねられたものを、私利私欲のために使う自然環境の破壊、多くの国々の自然破壊による地球温暖化の災害。今神は警告を与え、正義の神は、いつか、正しく裁かれる。

iii 貧しく苦しんでいる人々に愛を示す。最高に富んでおられた神なるキリストは、貧しくなり、クリスマスに私達を救う為に受肉、人、赤ちゃんにまで、へりくだられた。それは、キリストの私達への愛から出た恵み！「主は富んでおられたのに、あなたがたのために貧しくなられた（神が人となり、私達の罪の為に十字

架で死なれた)。それは、あなたがたが、キリストの貧しさ（へりくだりと救いの恵み）によって富む者（救いの恵みを受け、感謝して神と人に奉げる者）となるためです」（Ⅱコリ8：9）。

③地上の旅人、寄留者は、世の仕事、家庭での仕事、学校の学び、社会的責任は、どうでも良いというのではない。創世記1：28、Ⅰテサ4：11、Ⅰテモテ3：7。

i 仕事とは、神が人間に与えられた世界管理の使命（創世記1：28）。

ii 世の光（真の救いの光であるイエス様をいただいている光、その救いの光を世に伝える）、地の塩であるクリスチャン、教会は、塩が肉にすり込まれるように、職場、学校、家庭、世界中に神によって遣わされ、神の愛と聖さと正義をすり込む使命が与えられている。もちろん、共におられる主が力を与えられる。

iii 主は、教会だけでなく、社会と全世界の支配者なる主！

## Ⅱ 二つの故郷。：14-16

1. カナンの土地は、彼らが最終的に求めているものではない。：15にあるように、地上の故郷に帰るつもりであれば、いつでもそうすることはできた。しかし、かれらは、そうしなかった。：16にあるように、彼らにとって真の「故郷」とは、出て来た場所、生まれ育った所ではなく、「もっと良い故郷、すなわち天の故郷（神とお会いし交われる故郷）でした」：16。地上のカナンは、天の故郷の模型に過ぎない。神を信じる人々が受ける真の報いは、地上の過ぎて行く性質のものではなく、神ご自身と永遠に交われる命、生活。

天国の姿が、黙示録21：1-5に記されている→中心の恵みは「神は人々とともに住み」：3。

今のアドベントに主の初臨と再臨、天の故郷（神と親しく交わる）を思い過ごしたい！

2. 彼らは、地上のものに執着せず、天の故郷（神）に憧れていた。私達の憧れは？

3. キリストは、地上のものに執着せず、貧しくなり、王宮ではなく家畜小屋で生まれた。

## Ⅲ 神の応答。

1. 「ですから神は、彼らの神と呼ばれることを恥と成さませんでした」：16。

旧約の人々も、失敗があり、完全な人々ではなかった。しかし、彼らには、神への信仰があった。

それを神は 喜ばれた。弱い私達も、御霊のお働きで、主への信仰を告白する時（Ⅰコリ12：3）、

主もまた私達を励まして下さる→「だれでも人々の前でわたしを認めるなら、わたしも、天におられるわたしの父の前でその人を認めます」マタイ10：32。

2. 「神が彼らのために都（神が永遠に共におられる都）を用意されたのです」：16。天の都に三位一体の神がおられないなら、それは幸いな場所ではない。神は、旧約の信仰者の為にも、主を信じる私達の為にも、天の故郷（神にお会いし、神と永遠に幸いな交わりをもてる故郷）を用意されている。感謝します！